

「車椅子に関わるすべての人のために」 姫路発、全国初の教育プログラムを開発

車椅子は、適切に調整して正しく使うことで介護を必要とする高齢者や障害者が自立した日常生活を送ることができる大切な福祉用具。文部科学省の採択を受け、姫路市で「車椅子シーティング技術」社会人教育プログラムの開発に取り組むプロジェクトを紹介します。



「車椅子シーティング技術」って何？

高齢化が進む中、心身機能合わせた車椅子の調整が低下によって介助を必要と「きていない」ことによる二次する高齢者が増加。厚生労働省の「介護給付費等実態統計」によると、福祉用具としての「車椅子」の貸与件数は、長時間じっと座っていると年々増加。2019年度で意外に疲れますよね。「シーは、全国で約887万台が貸出されています（左下グラフ参照）。増え続ける車椅子の目的に合わせた適切な機器利用をめぐっては、「正しい姿勢で座っていない」「体」

を減らす技術です。体にフィットする車椅子であれば長時間座っていても苦にならず、移動や食事、入浴などの日常生活動作（ADL）が向上し、車椅子利用者が以前と変わらない生活を送るための大きな支えになります。

介護を学ぶ学生が 実証講座に参加

「介護施設職員や看護師、利用者の家族など、介護を担うすべての人に車椅子シーティングの大切さを知ってもらい、技術を学んでもらうための教育プログラムを開発したい」。かねてから実習教育を充実させ、国が認定する職業実践専門課程をもつ「姫路ハーベスト医療福祉専門学校」では、2019年度から、

のべ30時間に及ぶ授業では車椅子の構造理解やメンテナンス実習、シーティング技術を学び、最終日は学生がモデルとなって体に合わせる調整作業を実習。「車椅子一つで利用者の生活が変わることを学べました」「座位姿勢の大切さを利用者の立場で考えることができました」とても興味を湧いたのでもっと学びたい」と、受講した同校介護福祉学科1年生18人は目を輝かせます。



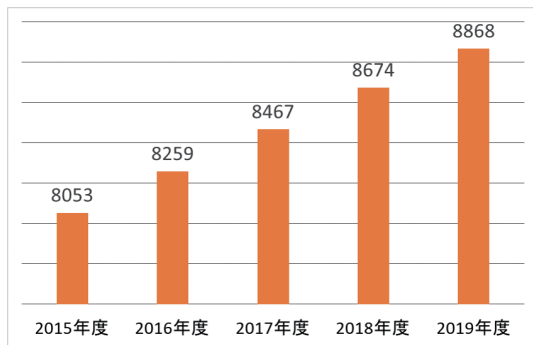
▲初めての車椅子のシーティング技術を真剣に学ぶ学生たち▶学習に使用した車椅子の一例。右は「モジュラータイプ」と呼ばれ、座面やアームレストの高さ、背もたれやフットサポートの角度などさまざまな調整が可能



姫路ハーベスト医療福祉専門学校介護福祉学科1年生の18人と同学科教員、実証講座講師を務めた「日本福祉用具評価センター」の西山輝之さん(後列左)、「ラックヘルスケア」の安村亮さん(前列左)

文部科学省の専修学校リカレント教育総合推進プロジェクトのひとつとして「介護における車椅子シーティングに関する技術習得のための分野横断型リカレント(社会人)教育プログラムの開発」に取り組んでいます。「分野横断型」の名の通り、このプロジェクトには教員だけでなく、福祉用具に関わる民間企業や社会福祉法人、教育コンサルタントなど幅広い人材が参加。2年目となる今年度は作り上げたカリキュラムを学生に受講してもらおう実証講座を行いました。

福祉用具「車椅子」の貸与件数 (単位:千件)



出典/厚生労働省「介護給付費実態統計」居宅サービスによる福祉用具貸与種目別調査

【問い合わせ】

姫路ハーベスト医療福祉専門学校
姫路市南駅前町91-6
Tel: 079-224-1777

HP

